



講師と真に交流できる認知症関連定期講演会(参加費無料)定期開催 ～各研究分野の第一人者を招聘、直接交流が可能～

設立以来十数年、間断なく開催の年2回の市民対象の定期講演会

- ◆防ぎうる認知症にならない社会づくりを目的として設立した当団体の事業の柱「認知症予防の啓蒙と普及」事業の一環として、2008年の法人設立以来、年2回の一設立記念・クリスマス講演会を継続開催。
- ◆コロナ禍でもオンライン開催にて中断せず、諸規制を逆手に取り、招待講演講師として各分野研究の第一人者を福岡県、兵庫県、島根県、宮城県等の遠方から招聘。

当団体講演会の特長：「講師と視聴者との交流」にひと工夫を加えて、理解を深める

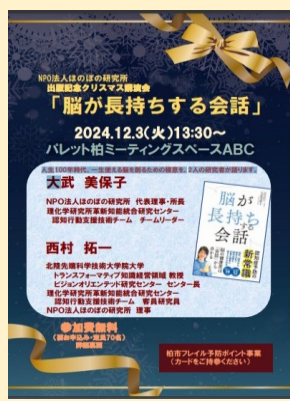
- ◆講演会プロトタイプは①招待講演+②基調講演（講師：当団体理事・所長）+③両講師の対談+④講師と視聴者との交流会。
- ◆コロナ禍は勿論オンラインでも実施、明け後は単なる茶話会ではなく、講師達との直接の会話や質疑応答はもとより、ミニワークショップや体験など、共に考え、体感する企画も加え充実。

男女共70歳代がボリュームゾーン、生涯学習向学心・認知症予防意識の高い40～90歳代が共に学ぶ場

- ◆柏市フレイル予防ポイント事業(H6終了)としても開催、当団体賛助会員・リピーターに加えて、出講等を機に、志を同じくする柏シルバー大学院生、千葉県生涯大学校卒業生、柏シニアクラブ連合会、柏市フレイル予防サポーターのメンバー等からの視聴者も増加、連携の輪も。今後も継続して知見共有の場、連携・協働のツールになることに努めたい。



July 15.2025



December 03.2024



August 20.2024



December 05.2023



積極的に参加者の輪に入って下さった講師と、講話のテーマ最新の認知症早期発見のシステムプランについての話が盛り上がる参加者。講師の実験に参加したい！という声も



社交ダンスもプロ級で中高年への指導歴もある講師のキレのあるダンスデモの後、講師の指導で参加者が（男性も！）果敢にトライ、皆が笑顔に



講演会開始前に配布された付箋に参加者が「ありがたい老い、避けたい老い」等について記入。項目ごとにホワイトボードに貼付けし、講師達と討議、歓談するミニワークショップ

歴代の招待講演講師(所属等は当時)

08.2019	国立長寿医療研究センター 島田裕之先生
08.2020	理化学研究所 渡辺恭良先生
12.2020	認知症予防学会副理事長 西野憲史先生
07.2021	理化学研究所 西道隆臣先生
12.2021	認知症予防学会理事長 浦上克哉先生
08.2022	国立長寿医療研究センター 島田裕之先生
12.2022	慶応義塾大学医学部精神神経科学教室 三村純先生
08.2023	東京大学高齢社会総合研究機構 飯島勝夫先生
12.2023	国立長寿医療研究センター 島田裕之先生
08.2024	東京大学名誉教授「失敗学」提唱者 畑村洋太郎先生
12.2024	北陸先端科学大学院大学教授 西村拓一先生
07.2025	量子科学技術開発研究機構イメージングセンター・大阪公立大学 樋口真人先生

概してややネガティブに感じがちな認知症に関する講話だが、今回の先進的なプランや技術の話には、明るい未来を感じることができた。淡々とした講話や交流会で、講師の熱い思いを実感できた

中年とおぼしき講師のキレキレのダンスに圧倒された。誘いに乗って、やってみたらとても楽しく、身体も自然に動いて、これいいなど。こんなに楽しい笑顔が溢れた講演会には 初めて！！

初めてのワークショップで、戸惑ったが、思いのままを書くことにした。参加者それぞれの思いを共有できたことは楽しかったし、参考になった。私より年長の人達の意見がとても積極的なことに、何よりも驚かされた。それに、皆さんとても若々しく見えた

講演会は公式YouTubeにて公開中 https://www.youtube.com/channel/UCz7L-TE_oqgoLORFqNoloZA

NPO法人ほのほの研究所(柏市) <http://www.fonobono.org/>

超高齢社会の課題である「認知症」を、高齢者を中心に全世代と共に考え、「防ぎうる認知症にならない社会」の実現を目指し、会話支援手法「共想法」の実践研究と普及、認知症予防啓蒙のために、平均年齢80歳以上の人生ベテラン世代と、認知症予防開始適期40～50代の多世代が活動しています。「共想法」とは、出題されるテーマに沿って写真を撮ってきて持ち寄り、写真を見ながら「話す」「見る」「聴く」「考える」を意識的に行う会話支援手法。雑談と比べて、加齢と共に低下しやすい、言葉を取り出す時に必要な認知機能：言語流暢性が向上するというエビデンスが得られています。コロナ禍以降は、参加者と市民研究員がコロナ禍に、オンラインのみで当時者目線でオリジナル開発したビデオ電話機能のある遠隔共想法スマホアプリを使って、自身のためだけでなく、認知機能を気遣うご夫婦等、九州・近畿地方在住のメンバーも交えて在宅で共想法を実践しています。